

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 24 年 1 月 5 日（木）10:20～11:45
- 場 所 合同庁舎 4 号館第 3 特別会議室

- 出席者 古川大臣、相澤議員、本庶議員、奥村議員、今榮議員、青木議員、中鉢議員、大西議員、泉統括官、梶田審議官、吉川審議官、大石審議官

- 議事概要

古川大臣挨拶

○相澤議員 第 1 の議題に入る前に、本古川大臣から年の初めと、それから今後の総合科学技術会議の運営について一言ごあいさついただければと思います。よろしく願いいたします。

○古川大臣 皆様新年明けましておめでとうございます。

旧年中は有識者議員の皆様方には、大変にこの科学技術会議のご尽力をいただきましたことをまずもって心より感謝を申し上げます。また、今日付けで、まずは任期を迎えられます青木玲子議員、そして中鉢良治議員、そして本庶佑議員のお三方に関しましては、本当に今大きく変わりつつあるこういう科学技術政策の司令塔のあり方、その議論の中でご尽力をいただきましたことをまずもって心より感謝を申し上げます。とりわけ、本庶議員におかれましては平成 18 年 6 月から 5 年半と、本当に長きにわたりましてご尽力いただきましたことを心から感謝申し上げたいと思います。政治もこれくらいじっくり安定していくともう少しいろいろなことが前に進んでいくのではないかなと本当に反省をいたしておりますけれども、本庶議員を中心としてご尽力いただいて科学技術会議も 1 つずつ前進をしてまいったと思っております。

こうしたこれまで科学技術会議の有識者議員の皆様方のお力をいただいて科学技術政策を強化すると、そういう取り組みを進めてまいりました。これをさらにより一層強化していく、そうした目的を持ちまして、昨年私が大臣に就任いたしましたから有識者研究会を立ち上げまして、昨年末皆様方にもご協力いただいてご提言いただいたところでございます。現在、これを踏まえまして、総合科学技術会議を改組して科学技術イノベーションを一体として今まで以上に強力に推進する司令塔の体制をつくっていく、そうした準備を進めているところでございます。

本来であれば、できるまでの間は総合科学技術会議、新たな有識者議員の方を迎えてということでございますけれども、皆様方もうご存じのように今国会のほうで、昨年の臨時国会に同意人事案でございますので、人事案を提出させていただいております。青木・中鉢両議員におかれましては引き続きご尽力いただきたいということで再任のお願いをさせていただいておりますし、また本庶議員にかわりまして、今度新たに平野俊夫

阪大総長を任命させていただく人事案を国会に提案いたしました。残念ながら、先の国会、野党との合意に至らず、これが同意を得られませんでした。これは本当に大変遺憾に思っておりますし、今まで、そしてまたこれからもご尽力いただく有識者議員の皆様方に本当に申しわけなく思っております。政府といたしましては、来るべき通常国会でできるだけ早期にこの同意が得られるように全力を尽くしてまいりたいと思っております。

しかし、同意が得られるまでの間、せっかくこれまで積み重ねてきていただいております有識者の先生方の議論を止めるわけにはまいりませんので、法政上の問題から総合科学技術会議としての活動が制約される部分はございますが、実質的な議論をきちんと担保するために懇談会を設置いたしまして、青木議員、そして中鉢議員、そして新たに議員になっていただく平野議員を含め、有識者の皆様方と実質的な意見交換ができる場を確保してまいりたいと思っております。このことによりまして、これまで皆様方が積み重ねていただいた議論を途絶えることなくしっかり実質的には引き続き続けていくと。同時に1日も早く国会同意を得て、新たな有識者の議員の方々にご参加いただいて、そして科学技術会議の議論を法的にもしっかりと進められる状況をつくっていききたいと思っております。

さらには、通常国会に先の研究会の報告書を受けて、今準備しております科学技術イノベーション戦略本部、これを設置するための、そのための法案も提出して1日も早い成立を図ってまいりたいと思っておりますので、どうか今年も皆様方のご協力を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○相澤議員 ありがとうございます。

今古川大臣から今後の運営についていろいろとご指摘いただきました。そのご配慮のもとに、本当にでき得る限り早い時期に、正常なる状況に戻していただきたいと思っております。特に有識者議員が3名欠けるという状況は極めて深刻な状況でございます。懇談会という形で専門調査会等の運営を補完していただくことはそれで結構なのですが、通常業務としてこのコアのメンバーが欠ける深刻な状況でございます。重ねてお願い申し上げますが、でき得る限り、早い時期に正常の状況に戻していただくことをお願いしたいと思っております。

議題1. 科学技術政策関係における当面の主要課題について

○相澤議員 第1の議事でございます。科学技術政策関係における当面の主要課題についてということで、ただいまの古川大臣のお言葉にもありましたような今後の運営形態についてまず触れて、その後でその体制で今後取り組まなければいけない主要課題は何かということをお今日は議論させていただきます。

それでは、まず今後の運営について大竹参事官から説明をお願いいたします。

<大竹参事官説明>

○相澤議員 ただいま説明のありましたような形態でしばらく運営をしていこうというところでございますが、ご質問ございませんでしょうか。

私からも補足いたしますと、この会合は5名の有識者議員で構成し、これまでと同じように開催するという事です。それから専門調査会については懇談会という名称にして運営する。そしてそこに3名の有識者議員となられる方々に加わっていただくと、こういう理解でよろしいですね。

○大竹参事官 1つ本当、申しわけございません。お話ししましたが、今後、今同意人事案でお願いしている3名の先生方につきましては当面の間、専門委員という形で懇談会にご参画いただく予定にさせていただきます。

○相澤議員 それでは、ただいまの運営形態はいろいろと非常に難しい問題が含まれておりますので、大変複雑な状況を迎え、そして相当悪戦苦闘をしていかなければならないのかと思いますけれども、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、そのような確認のもとに、これから取り組まなければいけない主要課題について、本日は、全体を見渡した範囲でこれが重要である、あれが重要であるというようなことを議論するという事にさせていただきます。ですから、ここで本日何か結論を出すという議題ではございません。

それでは、どのようなアイテムがあるのかということをお大竹参事官から説明いただきたいと思っております。

<大竹参事官説明>

○相澤議員 資料1に整理されているのは、今大竹参事官から説明ありましたように、大枠としてこういうようなことが重要課題であろうということ整理していただいているものであります。

特に丸の2番目、これが当面緊急性を持っているところであります。第4期の科学技術基本計画が閣議決定されたのが8月であったわけですが、その後、この基本計画を見据えて平成24年度の概算要求に向けて科学技術関係予算の関係を重点化する方向を進めてきておりました。ですから、このところ実質的には4期の実施を含んでいるところなわけでありまして、しかし、そのためにその取組が非常に多忙を極めたために4期の基本計画の全体の推進体制がまだ未構築であります。それをこのたびの専調から急遽懇談会という形にならざるを得なかったのですが、この専調がその主たる任務のところでありまして。ですから、丸の2つ目のところに掲げられている項目は、その専門調査会で検討され、それぞれの実施体制を具体的に構築するという事になってまいります。

それから、丸の3番目と4番目はそれぞれ評価専調、それから生命倫理専調のタスクとして与えられているものでありますので、これは形式が懇談会であれ、この内容を進めるということになるかと思っております。

そして最後の丸のところは科学技術関係予算の重点化でありますので、ここに来年度

概算に向けて大きく仕組みから変わってくるところかと思えます。

その1つは、丸の2つ目の4期の基本計画の推進の中にある科学技術イノベーション戦略協議会の設置がここに深くかかわってまいります。こういうようなことで当面進める重要課題が何であるかということ具体的に設定していくことと同時に、どうそれを具体化していくかというその進め方についてもこれから議論をいただきたいと思えます。

全体については、今私が補足しましたような位置づけになるのではないかと思います。

それでは、どうぞ、いろいろな角度からご意見をいただければと思えます。

○本庶議員

大きなところは基本的にこういうような丸のところだと思いますが、少し中身のところでここに全部書き込むべきかどうかは別として附帯的な意見として、本会議につきましては前回、やはり具体的な中身を示しながらそれを議論するというでないと基本計画そのものが羅列されていたとしてもイメージがわからないという声で民主党政権になって初めてかもしれませんが、極めて短い時間でありましたが、それなりに各議員からも具体的なものについての話の中で一貫した施策を述べるということにしました。今後はもう少し努力していった時間でも30分ではなく、そして、できれば我が国の最先端、どこが大きな課題であるのかと、そういうことを具体的な形で閣僚の方々に示せるような、そういう場にさせていただくのがいいのではないかなというように考えます。

それから第2点は、これは少し十分にご検討いただきたいのでありますが、生命倫理に関することであります。現在ここに取り上げられておりますES細胞からヒトの受精卵に関することは、総合科学技術会議として非常に長期にわたって検討してきております。それで、わずかずつでありますが進歩いたしておりますが、なかなか出口がはっきりした形でまだ出てきていないということで、やはりこれはもうiPS細胞等々の臨床応用も数年のスコープに入ってきておりますので、やはり明確な結論を出していただく。もう出ているということであればそれで結構ですけれども、ここはもう少し議論を整理していただくということが必要であろうと思えます。

これはここで言うのは寝た子を起すようなことになるかもしれませんが、ゲノムコホート研究をこれから展開していきますと、医療情報等々の膨大な個人情報ということが当然どういうようにこれを処理していくのか。またその中で当然国民のコンセンサスを十分に経ずに先走るといえるように見られる危険性もあります。ですから、やはりこの辺のところも今の意見集約で十分整理できているのかどうか。事務局のほうで十分ご検討いただき、もし足りないところがあるのであるならば各省連携のもとにこういう問題点を整理して、そしてゲノムコホートが本格的に稼働するまでにはやはり議論の整理が完了しているということが望ましいと思えます。

○相澤議員

第1点の総合科学技術会議の本会議のあり方、これは全く私も同意するところでありまして、これまで我々はそのことを努力してきたのだと思えます。それが、開催回数が少なくなったことと1回の開催時間が非常に短くなってしまったということでやむなく現在の形態にならざるを得なかったのだと思えます。これをもう一度初心に戻って、ぜひ具現化していきたいと思えます。これはぜひ事務局も十分にご理解いただきたいと思えます。

それから、生命倫理専調にかかわることではありますが、これは本庶議員の今ご指摘のとおりで準備をし、じっくりとこの1年ぐらいかけて状況を把握し、前回のガイドラインのところからステップアップするところにギャップがありますよね。ですから、これは十分に慎重なる検討、それから研究の進捗状況の非常に早い変化が起こっておりますので、それに対応した形にしていかなければいけないということで、ご指摘のとおりで動く予定になっております。

それから、ゲノムコホートについても十分にそのご趣旨を生かした形で進めるようにしたいと思います。

○奥村議員　この総－1の書き方の問題なのかもしれませんが、特にこの丸の2番目、4期の基本計画の推進についてポツが3つほど並んでおりますけれども、むしろ4期の基本計画、皆さんのお手元に緑の冊子があるのでごらんになっていただけたらいいと思うのですが、4期計画の構造はある意味では基本的に極めてわかりやすい構造になっておりまして、対象とする大きな課題はⅡ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ章であります。Ⅱ章は何であったかといいますと、持続的な成長と社会の発展で復興・再生、グリーン・ライフイノベーション、この大きな柱3つ。それから、Ⅲ章が我が国の直面する重要課題への対応ということで、ある種の国家の基盤をつくるプラットフォーム、そういう課題です。それからⅣ章は基礎研究と人材育成ということで、ある意味ではこれは科学技術を目指す、プラットフォームの構築を目的にしている、そういうように性格が異なるものがきちんと網羅的に取り上げられて構成されているのがこの4期計画の構造になっているわけです。むしろそういうようにこの4期計画の全体体制を推進する方策を書いていただくと、それぞれの課題に関する推進体制は恐らく異なるものになるはずですが、イノベーション戦略協議会だけがここに出てきていますが、これはまさにⅡ章のいわゆる成長を狙う部分の推進体制であります。

今申しましたようにⅢ章、Ⅳ章の推進体制は違った推進体制が必要になってきますので、やはりそのことを見逃さないためにも2番目の丸の書き方については、工夫があってしかるべきだと思います。

それとの関連でいいますと、最後の丸のところに「PDCAサイクルに関する検討」という表現がありますが、このPDCAサイクルは、必ずしも予算の重点化だけの目的ではありません。まさに今申し上げたⅡ章からⅣ章までの各政策のPDCAサイクルをどう回すのかということにかかわってくる4期計画の極めて重要な要素であって、わざわざ第Ⅴ章にそのことを立てているわけです。ですから、やはりこのⅣ章の構造に合わせて推進体制をどうするのかというように書いたほうがより4期計画を的確に推進する上で有効になるのではないかと考えております。

○相澤議員　ご指摘のとおりだと思います。丸2の第4期科学技術基本計画の推進というのは、この書き方は事務局で用意していただきましたが、こんなようなことがあるだろうという書き出しだと思いますので、整理した形で今ご指摘のとおり表現がよろしいかと思っております。

私もPDCAサイクルの位置づけはここではなく、むしろ第4期の全体の問題ですか

らそこにしかるべき形であるべきだろうと思います。

それに合わせて、先ほど奥村議員はⅡ、Ⅲ、Ⅳということを言われましたが、Ⅴのところにかかわるシステム改革にかかわること、これがまたもう一つ大きなアイテムだと思いますので、これも4期の中で十分に指摘しておかなければいけないことだと思います。

○大西議員 違う観点ですが、総合科学技術会議の今後のあり方を議論するときに、今日も配られています。新しい体制についてのレポートが昨年末にまとまったわけですね。これも法律を要することもあると思いますので、いつ実現するかというのは不透明なところもあると思うのですが、これが実現された場合には総合科学技術会議含めた改組が行われるということになると思うのです。それについては、輪郭はこの報告書に出て、これが法案等具体的な政策になっていくと思うのですが、一方で継続性といいますか、これまでの科学技術政策の立案なり実施のウオッチと新体制というのがうまく接合していくということが同時に大事だと思うのですよね。この中でも今までの成果が何でどこに課題があったのかということで、特に実施というところに課題があったというようなまとめ方をしているわけですが、逆に今までの成果、よかったところ、どこまで積み上がってきたので、ここについてはぜひ継承するべきとか、この点については具体的にこういうように変えるべきだとかということが何か総合科学技術会議のまとめとしてされていると、次の体制に移行するのがスムーズになるのではないかと。それは総合科学技術会議でしかできないことなのかなという気がするのですが、どういうやり方になるのかわかりませんが、短期的にその辺を整理して、次の体制がより充実したものになるためのノウハウを伝えるということも必要なのではないかと思います。

○相澤議員 大変重要なご指摘だと思います。ただ、新しい組織がどういう形にでき上がっていくのかということも非常に不透明なところがありますので、ただ今ご指摘の点は、むしろ現在の総合科学技術会議の体制としてもどういうところが強くてどういうところが問題ありとか、そういうことは常に見ておかなければいけないことだと思います。ご指摘を受けて検討できるようにしておきたいと思います。

それでは、ただいまのご指摘を受けて、今後進めるべきところを幾つか焦点を絞った形で今後の検討の対象とさせていただきます。

本席議員退任挨拶

○相澤議員 それでは、本席議員はこの会合がちょうど最後の回ということになりまして、本日この席で一言ごあいさつをいただきたいと思います。

○本席議員 私、気がつきますと5年半もこの会議のメンバーとして皆様方と一緒に議論させていただきました。

本日がちょうど最後の日に当たるということで一言感想と感慨を述べて最後の締めくくりにさせていただきます。

私が着任いたしましたときは小泉総理、松田科学技術政策担当大臣の時期でございます。それなりに我々としても非常に熱のこもった議論をやってきたつもりであります。しかしながら、その後、政権が目まぐるしく交代いたしましたして、数えてみたところ7名の総理、多分9名の科学技術政策担当大臣にお仕えしたということになるかと思えます。5年半で。ですから平均1年に満たないという目まぐるしい政治の変化という中で我々の提言が十分に活かされてきたかどうかはいろいろ難しい状況であったと考えております。しかし、この間この政権の変化と同時に世界全体が大きな変革と申しますか、混迷と申しますか、さまざまな出来事が世界中に起こっております。直近の3.11の惨事は申すまでもございません。このような時期に当たりまして、皆様方とほとんど意見を同じにしていると思えますが、日本がこれからきちんとした位置を保ち、また国民の幸福を担保していくためには科学技術の力、日本人の知恵と技をしっかりと活用できる、そういう国にしていくことが何よりも重要であると考えております。

今回、極めてこの重要な時期に総合科学技術会議の体制が不完全な状態となり、なおかつ新たな制度に向けての改革の途中であるということは非常に大きな痛手ではないかと私は本当に残念に思っております。しかし、このようなときであるからこそ、先生方のお力というのが国にとっても世界にとっても非常に重要であるというようにも考えることができると思えます。

ぜひ我が国の将来を担う総合科学技術会議として改組を経て大きな力が発揮できるような組織になっていただきたいと願っております。

私自身が、何ができたかということは自分が言うことではなくて、将来いろいろな方々からご批判をいただくということになるかと思えます。私なりに努力してまいりまして、先生方から大変いろいろなお教示をいただきました。また事務局の皆さん方も多くの方々が入りかわり立ちかわりでありましたが、それぞれいろいろなことを教えていただきまして大変ありがとうございました。この場をかりて御礼申し上げます。

○相澤議員　本席議員におかれましては大変長い間、ちょうど総合科学技術会議も変革していく、そういうフェーズでご尽力いただきました。心から御礼を申し上げますとともに、これからもぜひ外からも温かいご支援を続けていただくようお願いいたします。私からのお礼の言葉とさせていただきます。どうもありがとうございました。

議題2. 第4期基本計画の推進体制及び科学技術イノベーション戦略協議会について

(後日開催の科学技術イノベーション政策推進懇談会に関わる内容であるため非公開)

(以 上)